

研究分野		授業科目名				科目責任者	
組織培養・免疫系分野		免疫病態学特論Ⅰ・Ⅲ				向井 知之	
開講年次	共通／専攻／選択			単位数			
1,2,3,4	特論Ⅰ：必須専攻, 特論Ⅲ：選択			特論Ⅰ：4(2/年), 特論Ⅲ：1/年			
目的							
<p>研究課題に関連する英語原著論文を読むことは、研究領域の情報収集、実験方法の検討、研究計画の立案に必要である。以下を学習の目標とする。</p> <p>(1) 教員の論文紹介を見聞きして理解する。 (2) 原著論文を精読し、内容を理解する。 (3) 実践的な原著論文読解力を身につける。 (4) 質問や応答などの双方向性相互作用により理解を深める。 (5) 未解決の問題点を認識する。</p>							
授業到達目標							
<p>(1) 技能：自分の研究に必要な英語原著論文を検索することができる。 (2) 技能：人に説明できるまで論文の図や表の内容を理解する。 (3) 技能：論文の内容を要約して人に簡潔に紹介できる。 (4) 解釈：論文を批判的に読み評価することができる。 (5) 想起：論文の構成を理解し、自分の論文作成に役立てることができる。 (6) 技能：論文を読んで得たことを自身の研究に反映させることができる。</p>							
授業計画							
回数	月日	曜日	時間	担当者	区分1	区分2	授業内容
1	毎週	月	8:30-9:30	向井 知之	講義	[抄読会] [研究検討会]	免疫学の新知見、および自己免疫疾患・自己炎症性疾患・炎症性皮膚疾患・リウマチ性疾患などの病態解析・治療等に関する英文原著論文を紹介する。 [場所:本館棟7階免疫学実験室]
評価方法							
<p>【特論Ⅰ】</p> <p>(1) 1年間※で、講義は30時間出席し、科目責任者から履修手帳に出席印をもらい、提出する。 (2) 1年間※で、論文紹介または症例発表を2回行い、その要約2編を提出する。</p> <p>【特論Ⅲ】</p> <p>(1) 1年間※で、講義は15時間出席し、科目責任者から履修手帳に出席印をもらい、提出する。 (2) 1年間※で、論文紹介または症例発表を2回行い、その要約2編を提出する。</p> <p>ただし、特論Ⅰ・Ⅱで紹介したものと異なる論文であること。 特論ⅠとⅢの同年度での重複受講は不可とする。 ※1～3年生は2月末まで、4年生は11月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。33頁：単位履修方法参照。</p>							
課題(レポート等)に対するフィードバック							
<p>(1) 論文紹介については、内容の理解や紹介の仕方など改善すべきところがあれば指導する。 (2) 要約は添削して返却する。必要があれば加筆・修正を加えて再提出する。</p>							
教科書							
<p>ISBN-978-4860346768, 分子細胞免疫学：アバス-リックマン-ピレ 原著第10版, Abul K. Abbas, Andrew H. Lichtman, Shiv Pillai 著；中尾篤人監訳, エルゼビア・ジャパン, 2022 ISBN-9784524251155, Janeway's 免疫生物学, Kenneth Murphy, Casey Weaver 著, 南江堂, 2019 ISBN-9784260042383, 標準免疫学 第4版, 小安重夫, 梶島健治編集；小安重夫 [ほか] 執筆, 医学書院, 2021</p>							
参考書							
<p>ISBN-9784815730819, エッセンシャル免疫学 第4版, ピーター・パーラム著, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2023</p>							
準備学習(予習・復習等)							
<p>予習：(1) 受講に際して、免疫学教室の論文を読み、わからないことがあれば質問して理解する。 (2) 論文紹介で取り上げられる論文をあらかじめ読んで臨む。約1時間程度の予習を行う。 復習：紹介された論文の内容を自分の言葉で要約する。</p>							
修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連							
<p>課題を探究し、仮説立脚、検証に至るまでの科学的方法論・思考法を身につける。</p>							
注意事項・メッセージ							
<p>(1) 学会等で教員が不在の時は、休講とするので、予定は前もって確認すること。 (2) 文献は、Nature, Science, Cell, Immunity, Nature Immunology, Nature Medicine, Journal of Experimental Medicine, Journal of Clinical Investigation, Journal of Immunology 等から選ぶこと。 (3) 自分が紹介した論文の要約はその週の内に提出すること。</p>							